血

ノ植物學

者!斷ジテ婦女ノ態ヲ學ンデ安ヲ偸ム

植物學社會 アルやまと男子

カラモ

少シ

ハ憂國

ノ士ヲ出シタク念フ、

憂國

ナル

言葉ハ決

シ

テ政治家

ノミノ専賣デ

ナイ

時世デハナイ、

我が帝國

ノ爲メニ我等ハ我等

ノ

數原

軒

獨

語(其四十六)

力二 出 テナラヌ要件 ダ 平 ス 事 行 サセ テテ行 デア ク事デ 内デハ之レ アル ヲ モ 方亦學問ト教育ト 使 ッ テ國 民 全活 · ヲ 盛 改善 ンニ ヲ 圖 ス jν N 事 事 ダ ŀ 國法 ソ **≥**⁄ ムト道徳 テ生活 心トヲ重 間 題 ン ŀ ズル 金 ヺ 事 作 ŀ 問 决 題 ₹/ ŀ テ Ŧ

何故我ガ植物學者 え ナッテ 產業工業 尙 お新 丰 jν タニ資 原料 Æ, 二、此) ガ ハ 方面ノ開 何 テ 極 利用 メ ン デア テ 多 ス 拓 ベ jν ク 植物 乎 キ 向 Æ ハザ , ハ其 其 ハ敷限リモナク V ル乎、我等ハ帝國 v 天產 ニ對シテ最モ重要ナ位置ヲ占メテヰ 物 デアル、 我四 周ヲ 其中ニ ||ノ爲メニ今コソ立ツベキ秋デ 繞テ其前後 植物 ガ アル 左右ニ 今日 jν 何 處 然 7 デ旣ニ其等 **≥**⁄ モ見 世界ハ廣ク ハナイ乎、 付カル ガ 草木 其レ 立テ立テ

軒 獨 語 (其四十六)

〇本邦産あをきのり類ノ分類

軒 朝 比 奈 泰 彦

籄

ASAHINA

從來我國ニ產スルあを己のり類ノ記錄ヲ拾テ見ルト大體次ノ如キモノデアル

On the allied species of Leptogium tremelloides from Japan.

Müller-Arg. (Lichenes Miyoshiani 1891, Lichenes Yatabeani 1892): L. tremelloides Fr. var. azureum. Nylander (Lichenes Japoniae 1890): L. tremelloides Ach., L. pichneum Ach., L. pichneoides

Hue (Lichenes Extraeuropaei): L. tremelloides Fr. f. denigratum Hue var. azureum Nyn. var. caesium

Hue, L. denticulatum Nyr.

(1)

小

生

一ノ解釋

此

鑑別

法

(3)

(2)

葉體

ハ稍~厚ク (90-170μ)、髓層

 Y_{ASUDA} (FlechtenJapans) 安田 篤 日 日 本産 地 衣 類圖 說): ŗ tremelloides (L. f.) Wain. var. azureum Nyl.,

caesium (Ach.) Wain, L. moluccanum (Pers.) Wain

以上諸領 gratum ハ其一形ニ過ギズ叉 denticulatum ト稱スルモノモ Hum 自身デモ多少危ブンデ居ル、無子器ノ標本ニ ノ内 pichneum, pichneoides ハ caesium ノ異名トナッテ居リ azureum ハ tremelloidesニ合併サ

子器ノ 然ラバ此三種ハ何ニョリテ區別スルカト云フト胞子ノ形狀ハ三者トモ殆 依 タモノユヱ バ次ノ通リデアル 構造ニ基ク 一結局 Wainio (Étud. Lich. Brés. I, p. 223-226, 1890)ノ鑑別法ニ依ルノ外ナイ、 (1) moluccanum, (2) tremelloides, (3) caesium ノ三種ヲ考慮スレバヨイコトニナル ド同一デ區別ニナラヌノデ重ニ葉體 今其要點ヲ摘記

excipuli)ハ多層細胞列ョリナリ、 薬體ハ薄質 (34-80μ)、髓層ハ殆ド粘化セズ (haud distincte mucosum)、果托 果殼 (Perithecium)ハ殆ド消失シ子嚢下層ト區別シ難シ 1.ノ皮膚

(Stratum corticale

Leptogium moluccanum

細胞

列ョリナリ、果殻ハ子嚢下層ト區別シ難シ ハ粘化シ (stratum medullare bene mucosum)、果托ノ皮層ハ多層

Leptogium tremelloides

至ルニ從ヒ多細胞列トナル、 ハ約140μノ厚サヲ有シ、髓層ハ粘化シ、果托ノ皮層ハ緣部ニ近ク一細胞 果殻ハヨク發達シ圓形ノ大形細胞ヨリナリ子囊下層ト明ニ分化 列 ヨリナリ、 漸 ス 次下 方

Leptogium caesium

フ點ニ至テハ其程 ノ内デ(1) 棄體 (2) 對(3) ||ノ薄片ヲ「グリセリン」水ニ浸シテ鏡檢スルニ②③ノ場合ニハ 度ニ關シ ノ果殼ノ構造ノ差違ハ別ニ疑義ヲ挾ム餘地モナイ 中々解釋ガー定シ ナイガ多數ノ標本ヲ取扱ラ居ル内ニ自ラ了解 ガ (1) 對(2) (3) 著シク膨脹 ノ髓層 **୬ ≥** テ 得 中 タト 粘 央ニー 化 信ズル 有 所

軒 獨 語 (其四十六 ナ

Æ

デ ヌ

ルカラ自生

ノ狀態ヲ目睹シ澤山

標

本

接スル

機會

ニラシ

キ歐

洲

璺

者

ガ

時

=

過 タ人丈

誤

jν

コ ī

ŀ

的

ナ

デ流石ニ

WAINIO

Philippine

ヤ

Antilles

ナド

熱帶

地

フ

U

Ī

ラ

ショ

=

此

殆 ラ

1, 完全 コト ァ

ニ近キモ

ノデア

行發月五年七和昭 標本ハ ŀ 稀 散布シ 體 ŀ デ 所 r + ガ ヲ Æ tremelloides-group 分ッ 持ス 態ト 棄體 + 觀 無子器 テ居 ヲ呈 省略 全體 タ. jν 分 (2)アド = ガ此標本ハ裂芽ガ (3)iv 反 ノモ デアル **≥**⁄ ŀ jν リア海 卽 **≥**⁄ タ シテハ之ニ水ヲ注ゲバ軟化シテ膠樣 Æ デ (1)、其理由 チ ガ ガ裂芽 毛 r = = 現 ノ地 ァ \mathcal{F} jν ノ一嶋ノ産デ某地衣學者ノ自筆デ②ト鑑定シテ 7 ッ jν ッ ハ從來裂芽ガア 衣 液層ト テ 叉葉體 ガ テ ゴ ァ 兹二 無 ハ皮層 水ヲ含タ葉片 ヂ ACHARIUS jν 力 アレハ 注 ッ 稱スベキ部 ノ厚 , デ (3) ト 意ス タノデ剖見ヲ 7 厚 ゚゙サ 重 jν ナ ナ 時代 點ハ粘化 銘 ガ jν Ŀ 打 分ヲ生ジ ノ斷 全葉體 Æ 直 二 (3) 下ノ テ カラ文獻ニ頻出 省略 アル 面 Æ 皮層 此 ハ60μ 前後 ノ十五分 ŀ 有無 ナイ ガ ナル **≥**⁄ ノ水ヲ含 決シ 其葉體 タ 爲 ノデアル タ習慣 主 叉皮層 **≥** 誤謬 ラ檢 いデ髓層 ヲ越 スル ŀ [タ時 テ排 **≥** ガ危險デアル テ葉體 ガ元來熱帯 ス ノ厚サハ葉體 サ = 今小生 r 計算 jν ヌ 陷 1 jν ŀ 全面 タ 標 (1)1 常 鰤面デ Ŧ デ 本 T = ハ裂芽 = 異層 二十分 亞熱帶 屬 亙 r jν ト認メタカラデ 解剖 リテ殆 ス jν = 地 厚サ ŀ jν (isidium) ジテ居 = 叉スカ ガ 1 ノ結果(3)デ 產 ノ十分 ド均 位 分 ŀ heteromerous lichens デ ガ = ·歐洲 過ギヌト 分 \mathcal{V} jν 一二「ゴニヂ ヂ ナ 有 デ 更ニ重要ナ ア = jν (1)以上 無 F, 此 現 r ŀ ŀ (2)較 云 (3)=

達

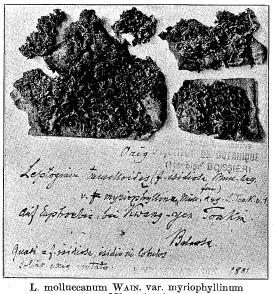
コ

小 フ

フ

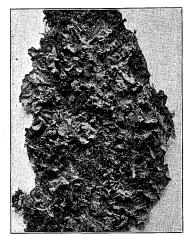
箇 所 デ 琉 其 ス 球 jν 好意デ實見ス 力 ツ tremelloides-group ラ 植物學雜誌第四 タ E デ jν 他 = ŀ ノ標本 ヲ 八四號第三二一頁ニアル 得 一灣産デア 八目下三十三 MÜLLER-ARG. jν 其構 箇程アル 造ガ 標本中 Liukiu (Asahina, No. (2)ガ其内 ノ規 Æ 同 Leptogium tremelloides ニー致スルノミナラズ最近ジ ノ命名デ入ッテ居タ、 244)デアリ ١ Leptogium 認 他 厶 ネ べ キ Æ

Leptogium molluccanum (Pers.) Wain.



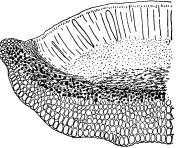
L. molluccanum WAIN. var. myriophyllinum (MÜLL. ARG.).

(Leptogium tremelloides v. myriophyllinum Müll. Arg.) Original Preparat.



L. molluccanum Wain. var, azureum. (L. tremelloides Fr. v. azureum Nyl)

Y. ASAHINA photo et del.



琉 屬

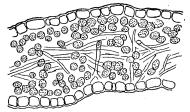
產

四

ノ産デ盡ク Leptogium水小笠原島産三箇ト臺場合ニハ葉體ノ構造トアトハ北硫黄島一、鹿アトハ北朝

中全器の部

Vertical section of the apothecium.



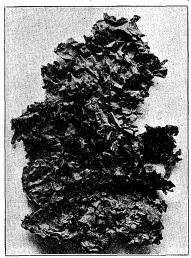
Vertical section of the thallus.

moluccanum 1

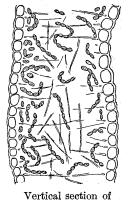
但

ガ上向シ邊縁ガ鱗片狀

Leptogium tremelloides (Linn. Fil.) Wain.



Habit of the plant.



the thallus.

ネバナラナイ、

ソレ

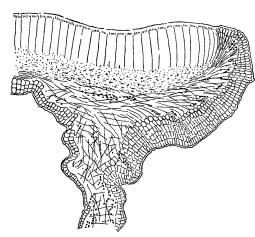
カラ從來

L. tremelloides v. azureum

Leptogium moluccanum

細裂シ更ニ裂芽トナリ 自ラ 品種ヲ異 ARG. ニ屬スルカラ テ葉體 ガト ス ン * を産り MÜLLER-ARG. 毛 ノニ命名シタ 傾向ヲ有ス ۲ 同 jν Æ Leptogium v. myriophyllinum ガ \mathcal{F} jν ガ tremelloides

\ MÜLLER-

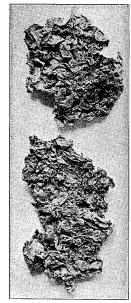


Vertical section of the apothecium. Y. ASAHINA photo et del.

caesium azureum moluccanum ト思フ、 往々 呼

以北 呼デ居タ本 (1) 品

Leptogium caesium (Ach.) WAIN.



242)

此

ナラ タカ

ナイ 誌

先 ヲ 取

現

植 物

小生ハ 念ノ爲ニ故安田理

ノ豐富ナル テ

ト命名シ

ラ コ

L. molluccanum var. pichneoides

ŀ 呼バ ゥ

(Lich. Jap. p. 15)

Leptogium caesium v. pichneum Vair (Mt. Fuji:

ASAHINA

ハ富士ノ馬返ノ採品デ裂芽ノアルモノヲ

標本ヲ 調査シタルニ矢張

L. caesium

ナ

命

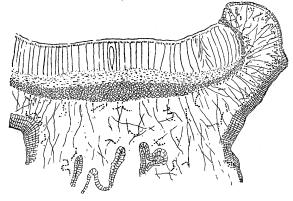
名

下

多數

Vertical section of the thallus.

Habit of the plant.



Vertical section of the apothecium.

Y. ASAHINA photo et del.

tremelloi

moluccanum

型ノモノヲ認 メタ、又眞正

古事記ニ見エシ植物(承前)

des ハ琉球以北ニナク caesium ハ九州、 本州ニ於テ産スル大多數ノモノハ moluccanum ニ屬スルモノデ假令へ裂芽ヲ有シテ居テモ其子器ト葉體トノ構 四國 紀州ヲ經テ房州迄來テ居リ明ニ暖地性ヲ示シテ居ル、之ニ反 3

造デ斷然コレニ入ルベキモノデアル、以上ノ議論ヲ整理スレバ次ノ通リトナル

Leptogium tremelloides (Linn. fil.) Wain. Etud. Lich. Brésil, vol. I, p. 224. はひいろきのり (琉球、臺灣)

Leptogium caesium (Асн.) Warnio, Étud. Lich. Brésil, vol. I, p. 225.

てなあをきのり(臺灣、琉球、

Leptogium moluccanum (Pers.) Wainio, Étud. Lich. Brésil, vol. I, p. 223. 九州、四國、紀州、房州) うすばあをきのり(臺灣、小

var. myriophyllinum (Müll. Arg.) nov. comb. 笠原島、九州、四國、本州以北)

(Syn.) L. tremelloides v. myriophyllinum Müll. Arg

var. azureum (Ach.) nov. comb.

州以北)

(Syn.) Leptogium azureum Ach.

var. pichneoides (Nyl.) nov. comb. (Syn.) Leptogium pichneoides Nyl. Lich. Jap. p. 15.

〇古事記ニ見エシ植物 (承前)

白 井 光 太 鄎

ちょれあをきのり (同

前

あをきのり(九州、

四國、

本

こばのあをきのり (同

前

理學博士

ソレカラ段々長クナリマスガ栲ト云フ字ガアリマス、之ヲたくト讀ミマス、古事記ニ人ノ名デ栲幡千々姫ナド